

目指す学校像（ミッション）	深い理解を伴う知識学習を基本とした、心豊かな創造力・発信力をもった国際社会に貢献できるリーダーの育成
本年度の重点目標	<p>1. 問うことからスタートする学習者主体の学びと高いレベルで学ぶための知識学習のバランスの取れた探究型授業の実践</p> <p>2. 異学年齢学級（Team）の活動やテーマ探究における協働学習を通して互いに高め合うことのできる異学年齢の学習集団づくり</p> <p>3. 一人一人が学びに向かう意識づくりをし、学校行事や学年行事への主体的な取り組みへの参加</p> <p>4. 教育活動を充実させるための教育環境整備を行うとともに、広く教育活動を公開し保護者の信頼と期待に応える学校づくり</p>

学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト							学校関係者評価(令和3年4月)
評価項目	年 度 当 初		中間評価（10月）	最 終 評 価（3月）		次年度の課題	意見・要望・評価等
	現状と課題	具体的な方策	経過・進捗状況	経過・達成状況等	達成度		
1 よりよい授業を目指す授業開発の取り組み 授業改善	<p>【PS】・学年団による学力向上を目指した目標の設定が必要。</p> <p>・探究型の学びへの積極的な実践。</p> <p>【P】児童が授業で活躍するための仕掛けや工夫が課題。</p> <p>【S】学習者主体の探究的な学びと、より高いレベルで学ぶための知識学習のバランスのとれた授業実践が課題。</p>	<p>【PS】・ICT 機器を効果的に活用し主体的・対話的で深い学びに繋げる授業研究・授業研修に取り組む。</p> <p>・学園研修担当者や管理職による授業参観を実施し、探究型の授業方法の具体的な課題を見つけ助言する。</p> <p>【S】学年クラスの担任を配置し、学習集団としての意識・機能を高めしていく。</p>	<p>【P】ICT 機器で教材を提示したりノートや作品を共有したりしながら対話し思考する場面が増えてきているが、探究的な深い学びに結び付けられていない。</p> <p>【S】電子黒板にテキストや動画を映す等見える化されることで議論も助長されるようになった。学年クラス担任としては主体性を身に付けさせることが課題。</p>	<p>【P】学園研修や授業研修に取り組みながら自分自身の探究型授業への課題に向き合うことができた。</p> <p>【S】固定した学年クラスの授業時間が約半分を占める体制となり、授業環境が落ち着いてきた。協働的な学びは制約を受けたが、主体的な学びは研修を通して改善されつつある。</p>	<p>【P】B</p> <p>【S】B</p>	<p>【P】セカンダリーから求められる学力の到達度の確認調査の結果と個々の学習状況を分析し、接続ギャップの解消を図る。</p> <p>【S】セカンダリーの学習集団としてのレベルを高め、学年組織を整備し、ターシャリーへの進学を意識させ、学力の一層の向上を図る。</p>	<p>ICT を巧みに使い効率よく、分かり易い学習ができていると思う。</p> <p>研修顧問による授業研修だけでなく、部内での授業研究会を定例に行うことで、課題やテーマを設定し、互いに授業を見合い授業力向上に努めることができた。</p> <p>個人、集団として学び得た規律をもって総合部全体の学力向上を目指してほしい。</p>
2 異学年齢のよさを活かした Team の運営 Team の充実	<p>【P】Team の探究や表現活動の中に、調べ学習や形だけの理解といった要素が入り込んでいないか評価・検討していく必要がある。</p> <p>【S】Team のテーマを授業への参加に設定し、異学年での話し合いを重ねながら、個々に学習者としての主体的な姿勢づくりを厳しく要求していく必要がある。</p>	<p>【P】Team の探究では一人一人が問いを立て協働学習を通して学びを深める。表現活動では様々な表現方法を探究し Team が一つになって発信していく。</p> <p>【S】みんなと一緒に学習することができるとい学習者としての条件を Team で討議し異学年集団で力をつけていく。</p>	<p>【P】上級生が進んで考えることを働きかけ活躍できる仕組みを構築することで下級生にリーダー像を見せていくことができた。認め合う場面を多く作ることで探究的な取り組みもできている。</p> <p>【S】一人担任制となり8年生の役割がより重要になり意識した対話をもっと必要である。学習集団としてのまとまりを形成していくまでには至っていない。</p>	<p>【P】Team 探究や表現活動を軸に異学年で学び合う楽しさの中で探究心を持って取り組ませることが概ねできた。</p> <p>【S】今年度は Team 運営も工夫を強いられたが、教員が8年生のリーダーシップを引き出し、「表現」活動では児童生徒の創意工夫が随所に見られた。</p>	<p>【P】A</p> <p>【S】B</p>	<p>【P】Team 探究では、一人一人の問いをより深く展開できるテーマを設けるなど題材、仕掛けの工夫が必要となっている。</p> <p>【S】異学年の活動が制約を受けることが予想される中で、一つ一つの活動の質を高めていくことが課題である。</p>	<p>コロナ禍で活動が制限される中、4、8年生のリーダーシップが十分に発揮されていた。Team 運営も難しい状況にもかかわらず、工夫が見られた。</p> <p>更にセカンダリーは、Team 活動の中で学び合いの時間を取り入れる等、児童生徒の主体的な取り組みや異学年を意識させるような働きかけを期待する。</p>
3 児童・生徒が主体的に活動する学校生活・学校行事の実現 主体的な活動	<p>【P】児童会活動や Team での生活を通して自分たちができることを見つけて改善していくことが課題。</p> <p>【S】児童生徒一人一人が学校生活をよりよくしていくために自分は何ができるかを常に考え行動に移せることが課題。</p>	<p>【P】学年の発達段階に合わせて自分ができることを考えさせ、仲間と協同して計画・実行・検証を繰り返す経験させる。</p> <p>【S】学年の発達段階に合わせて自分ができることを考えさせたり役割を持たせたりする中で成功体験を積みませ達成感を味合わせる。</p>	<p>【P】教員の肯定的な声掛けの成果が児童の主体的な取り組みに繋がっている。</p> <p>【S】課題はあるものの探究心や学びに対する姿勢を感じる。教員が児童生徒の良さを認め、責任感、達成感、成功体験をもっと経験させるような仕掛けを作っていく必要がある。</p>	<p>【P】コロナ禍でも工夫した取り組みを見つけ出し実行するまでのプロセスを根気強くサポートすることができた。</p> <p>【S】集会や行事、委員会活動は制約のある中でもそれぞれの責任者が中心となって行動すれば実現できるという経験が得られた。</p>	<p>【P】B</p> <p>【S】B</p>	<p>【P】行事やフィールドワークにおいて児童の主体的な学びの質の向上を図る。</p> <p>【S】セカンダリーの縦割り活動のメリットと同等の各学年の成長に合わせた学びが強く求められる。</p>	<p>児童生徒一人一人が「Team のために自分が貢献できることは何か」を自然に考えられるような働きかけが十分にできていたと考える。しかし、中には消極的な児童生徒も見受けられるので、挑戦できる機会を作り自信ややる気を引き出すことで全体的なレベルを上げていきたい。</p>
4 教育環境の充実と保護者や入学希望者への情報の充実 教育活動の充実	<p>【PS】・新型コロナウイルス感染症に対応した教育活動や広報活動の工夫。</p> <p>・熱中症対策への取り組み。</p> <p>・ホームページ「児童生徒が作るブログ」の充実。</p>	<p>【PS】・ICT 担当を中心にオンライン学習の準備整備をし、各学年で授業計画を立てる。また、保護者との協力体制も整える。</p> <p>・養護教諭と連携した熱中症予防対策。</p> <p>・ホームページの更新と充実。</p>	<p>【PS】 Team、学年通信・メール配信・Google Classroom・HP等を活用し適時的確に情報発信することができている。Zoom でのオンライン学習や行事のライブ配信においてもICT 担当を中心として教員がノウハウを蓄積・共有できている。</p>	<p>【PS】 Team や学年通信・メール配信・Google Classroom・HP等を活用し適時迅速に情報発信することができた。オンライン学習をはじめ行事や説明会等の配信においても児童・生徒そして保護者との繋がりを第一に考えて行えた。</p>	<p>【P】A</p> <p>【S】B</p>	<p>【PS】授業の中で、より効果的なタブレット活用や個々の家庭学習と連動したアプリの活用が期待される。また、更なる ICT 活用に向けての教室環境整備を推進する。保護者が求める情報をわかりやすく迅速に発信する。</p>	<p>コロナ禍の急激な環境変化に合わせて迅速な対応がなされており、素晴らしい評価に値すると思う。一方で情報発信の一元化などの改善に取り組んでほしい。また、今年度培ったオンライン等のノウハウを更に加速させ、学校の財産となるまで昇華してほしい。</p>

◆ 達成度 A：ほぼ達成（8割以上） B：概ね達成（6割以上） C：変化の兆し（4割以上） D：不十分（4割未満） ◆ 【P】とは：プライマリー課程（小学校1年生～4年生） 【S】とは：セカンダリー課程（小学校5年生～中学校2年生）